

第60回北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会

平成24年9月8日(土)・9日(日)にかけて山形テルサにて、第60回北日本産科婦人科学会 総会・学術講演会が開催されました。当会は山形大学医学部産婦人科 倉智博久教授を会長として開催され、338名の先生方が参加しました。素晴らしい学術講演と討論により、盛会のうちに終了致しました。当大学および関連病院から5題の一般演題が発表され、6部門において5名の先生が座長をつとめられました。

一日目には、当大学・宮城県立こども病院の室月淳連携大学院教授および当大学・宮城県立がんセンター山田秀和連携大学院教授がそれぞれ特別講演の座長を務められました。招請講演では、慶応大学岡野栄之教授が最新のiPS細胞技術を用いた疾患・創薬研究についての成果を発表するとともに、iPS細胞を用いた生殖細胞分化研究の重要性を指摘されました。

また、当大学杉山隆准教授および宇都宮裕貴准教授が一般講演の座長を勤められ、活発な討論を遂行されました。

当大学永井智之先生、佐藤孝洋先生および藤澤夏行先生(岩手県立中部病院)、戸草明日香先生(同左)、横山智之先生(大崎市民病院)、市川さおり先生(山形県立中央病院)が一般演題を発表し、ともに活発な討論が行われました。また、佐藤多代先生(岩手県立中部病院)が産婦人科診療ガイドライン-産科編について講演されました。

当日の講演会終了後には、メトロポリタン山形に於いて総懇親会が盛況に開催されました。山形名物が豪快にふるまわれ、山形大学山形花笠踊り部の学生による花笠踊りも披露されました。

二日目には、八重樫伸生教授が産婦人科診療ガイドライン(婦人科外来編)についてのクリニカルセミナーおよびロボット支援手術のワークショップの座長を務められました。ワークショップでは医療ロボット da Vinci を運用したロボット支援手術の利点が紹介されました。

一般演題では、田中創太先生および小澤克典先生が発表され、ともに活発な議論が行われました。小澤克典先生は見事、周産期部門の優秀演題賞を受賞され、閉会式にて表彰されました。

